

ここちゃんと防災

～ “ここ” から “ちゃんと” そなえよう～



今月のテーマ

「防災キャンプ」

2022年7月 vol.9

資料提供：中部地域組織委員

災害時の避難生活では、避難所に入れず車内で過ごすというケースも少なくありません。普段と全く異なる環境に、家族(特に子どもさん)は対応できるでしょうか？

今月は家族でアウトドアを楽しみながら防災に取り組める、「防災キャンプ」を紹介します♪

1 「防災キャンプ」とは？

キャンプって楽しいけれど、普段の生活で当たり前につかっているもの(ガス、水道、電気)が簡単に使えないので、少し不便も感じますよね。

キャンプを通じて、“慣れない環境(避難生活)”を経験することで、非常時の心構えを学んだり今の備えが家族に合っているかどうかを知ることができます。

2 防災グッズや非常食を使ってみる

例えば、懐中電灯を暗いテントの中で点けてみましょう…その明かりだけで充分でしょうか？

非常用携帯トイレの使い方はわかりますか？

試しに使ってみることで、非常時に慌てずに済みます。

非常食を食べてみて味や食べ方に慣れておくことも大切です。



3 防災時のテント活用方法

キャンプの必需品である「テント」は災害時にも活用できます。

テントの中であればプライベート空間を確保できるので、更衣室や簡易トイレスペースになります。

また、狭い空間で長時間じっとしていると「エコノミークラス症候群」を引き起こす恐れがありますが、テントであれば、その恐れを軽減することができます。

設置が難しいイメージがありますが、最近は、ワンタッチ式など設置が簡単なテントも沢山あります。

4 キャンプでの気付きを大切に♪

自宅に戻ったら、防災キャンプをふりかえりましょう。

実際に体験してみて、足りないものはなかったでしょうか？

テレビやゲームのない時間を、どのように過ごすか家族で考えるのも良いですね。

ぶらす1 「防災ピクニック」…防災仕様にアレンジしたピクニックのことです。

防災

ピクニックを楽しみながら、家族や友人と防災について考えることができます♪



2021年8月2日(月)に中部地域で「おやこ de 防災ピクニック (ウォーク)」が開催されました。防災リュックを背負って、子どもたちと一緒に避難所まで歩いてみました。山口市にある“こことどうもん店”から“白石地域交流センター”までの約200メートルの道のりの中で、たくさんの気づきがありました！参加者の感想の一部をご紹介します♪

屋根の瓦が落ちてきそう (小2)

高い建物のガラス破片が遠くまで飛散するかも。

マンホールから水が溢れてくるかも… (小5)

実際にリュックを背負って歩いてみて、「私の防災リュックはまだ増やせそう」と思いました。



2021年8月中部地域組織委員会発行ニュース【ここめ～】より